

感情は社会的に学習される

感情は、生まれつきのものだけでなく、社会のなかで身につけていくものでもあります。

例えば) 病院の新生児室でひとりが泣きだすと、みんなが泣きだしてしまうというように、感情は社会や周りの環境によって生まれ、変化していきます。

おこったり、暴力的だったりすることも、生まれつきの性質だけによるものでもないことがわかっています。

心理学者のバンデューラ（自己効力感や社会的学習理論）は、

アルバート・バンデューラは、自己効力感や社会的学習理論で知られるカナダ人心理学者

自己効力感（じここうりょくかん）（self-efficacy）とは、自分がある状況において必要な行動をうまく遂行できるかという可能性の認知。心理学で用いられる

よく似た用語に、自尊心(self-esteem)があるが、自尊心は自分を信じていること、あるいは自分を信じ

（自分を大切に思う気持ち、信じられる心の高低）

ていると感じている程度を意味するのに対し、自己効力感には自分にある目標を達成する能力があるという認知のことをさす。

ただし、高い自尊心を持っていれば、困難な作業であってもそれに取り組もうとして、結果的に成功をもたらすことも多い。

「だいじょうぶ」「できる」「頑張れる」と思える気持ちを持てるかどうか

人形を殴っている大人のビデオを見た子どもは、同じ行動をするようになることを観察し、暴力は大人の暴力を見たりまねたりすることで生まれるとしました。

つまり、大人の行動を観察して学習し、自分の行動としていく のです。

これは、社会的学習といわれます。乱暴なビデオやゲームの規制は、この実験の結果から生まれてきました。

成長において環境がいかに大事であるか、人間は成長の過程において、ほとんどの部分を環境に影響を受けながら善いこと

も悪いことも獲得し、成長していきます。環境、人・物 その子を取り巻くすべての物が環境であって、あらゆることから影響を受けて学習し獲得していくもの、必然的に身近な存在から大きな影響をうけるのは避けられませんよね…親・兄弟・

友達・先生、テレビ、ゲーム…。

「アメリカインディアンの教え」

批判ばかり受けて育った子は非難ばかりします

敵意にみちた中で育った子はだれとでも戦います

ひやかしを受けて育った子ははにかみ屋になります

ねたみを受けて育った子はいつも悪いことをしているような気持ちになります

心が寛大な人の中で育った子はがまん強くなります

はげましを受けて育った子は自信を持ちます

ほめられる中で育った子はいつも感謝することを知ります

公明正大な中で育った子は正義心を持ちます

思いやりのある中で育った子は信仰心を持ちます

人に認めてもらえる中で育った子は自分を大事にします

仲間の愛の中で育った子は世界に愛をみつけます

日本の古いことわざの中にも子育てに関する知恵がたくさんあります。

蛙の子は蛙

かえるのこはかえる 意味子は親に似るもので、凡人の子はやはり凡人であることのたとえ

『子どもは大人の鏡』

子どもは、批判されて育つと人を責めることを学ぶ

子どもは、憎しみの中で育つと人と争うことを学ぶ

子どもは、恐怖の中で育つとオドオドした小心者になる

子どもは、憐れみを受けて育つと自分を可哀想だと思うようになる

子どもは、馬鹿にされて育つと自分を表現できなくなる

子どもは、嫉妬の中で育つと人をねたむようになる

子どもは、ひけめを感じながら育つと罪悪感を持つようになる

子どもは、辛抱強さを見て育つと耐えることを学ぶ

子どもは、正直さと公平さを見て育つと真実と正義を学ぶ

子どもは、励まされて育つと自信を持つようになる

子どもは、ほめられて育つと人に感謝するようになる

子どもは、存在を認められて育つと自分が好きになる

子どもは、努力を認められて育つと目標を持つようになる

子どもは、皆で分け合うのを見て育つと人に分け与えるようになる

子どもは、静かな落ち着いた中で育つと平和な心を持つようになる

子どもは、安心感を与えられて育つと自分や人を信じるようになる

子どもは、親しみに満ちた雰囲気の中で育つと生きることは楽しいことだと知る

子どもは、まわりから受け入れられて育つと世界中が愛であふれていることを知る

あなたの子どもはどんな環境で育っていますか？

この詩を書いたのは、アメリカ・ロサンゼルス出身のドロシー・ロー・ノルト博士。2005年に亡くなるまで、彼女は40年以上にわたって『家族について』の講習や親子関係の研究を続けていました。

ドロシー博士は、この詩についてこう語っていたのだそうです。

「子どもは親を手本にして育ちます。毎日の生活での親の姿こそが、子どもに最も影響力を持つのです。

そのことを、詩『子は親の鏡』で表現したかったのです。」

良いことも悪いことも、子どもは一番の見本である『親』を見て学習します。

愛する子どもには幸せな人生を歩んでもらいたい。そのためには、親が自らの行動が子どもの『鏡』となっていることに気づくべきなのでしょう。

自分の姿を、子どもにどのように見られているのか。ハッとさせられます。

「どうしてうちの子はこうなんだろう？」悩んだ時に、取り出して読んでみると心にすっと落ちる言葉ではないでしょうか。